
Butler Angel

ハミユル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Butler Angel

【Nコード】

N5863Y

【作者名】

ハミユル

【あらすじ】

突如現れた不審人物。どうやら彼は彼女の執事兼天使らしいが…
…？

第一話 不審者

「あーもう!! 売上売上って五月蠅いのよ!! こっちだって一生懸命やってるっつーの!! 第一、私自身わかっていない部分もある上に、更に教えてくれる人がいないのに、一体どうしろってんだ!」

腹立たしく愚痴を零しながら会社を後にすると、いつものように駅へ真っ直ぐに向かう。

空はすっかり暗くなっていて、携帯電話の時計を見ると七時を過ぎた所だった。

「はあ……」

ガツクリと肩を落として、重い足取りで駅に着くといつものように特急に乗車しようと長蛇の列に並ぶ。

今日は前から五番目ぐらいだから、運が良ければ座れるかも。

毎日ラッシュ時に帰るせいか、当然のように長蛇の列ができていて中々座れないのよね。

「あー座りたいなあ……」

電車が到着してドアが開くと、大勢の人が我先にと乗り込み私もすぐさま座席を確保する。

座れてよかったと安堵の溜息をはいていたら、少しして電車のドアが閉まりライトアップされた街並みが見えた。

それにしても今日は疲れたわ。

「明日は休みだからまだいいけど。暫くズル休みして旅に出たいかも…… ああ、現実逃避したいってマジでもそれは、社会人としてまずいよね。

皆に迷惑をかけてしまうのが目に見えているし、仕事にも支障をきたしかねない。

乗り換えをしながら一時間ほどで家からの最寄駅に着くと、私は足早に自転車置き場へ向かう。

水色のマイ自転車を見つけて跨り、家路へと急ぐ。
駅から家は十分程度の距離で、そこまで遠くはないと思う。近いとも言い難いけどね。

近所の信号を横断して細い路地に入り角を曲がると、我が家に着く。ガレージに自転車を置き、私の腰付近まである門を引き玄関のドアをノックする。

すると中からお母さんが顔を出した。

「ただいまー」

「あら、おかえり智佳」

「あー。疲れたわー！」

お母さんの横を通り抜けて、リビングにカバンを置くとすぐにお風呂場へ向かう。

何を隠そう、私は一番風呂が大好きだ。

そのせいか、自然と私が毎日お風呂を洗うようになっていて、既に習慣化してしまっている。

特に嫌とも思わないので今も続けているけど、疲れている時は時々変わって欲しいなと思うことはしばしばあった。

洗剤を片手に腕まくりをしながら、いつものようにステンレス製の浴槽を洗っていく。

築三十年の古風な家のせいか、今ではるくに足も伸ばせないのよね。幼少の頃はこの中に、二つ年下の弟と一緒に入っていたんだけど、そう考えると私も大人になったもんだ。

「さてと。あとはお湯が溜まるのを待つのみね」

リビングに戻って、鞆と上着を肩にかけながらテーブルに置いてある料理に視線を移す。

どうやら今日は、カレーうどんのようだ。周りには野菜と豆腐とその他諸々が並んでいる。

ちなみに我が家の夜食は遅く、九時過ぎに漸く食べれる形。

それもこれも、お父さんに合わせて作っているせいだけだね。

それが嫌なら、自分で作って食べるというのが我が家のルールだっ

たりする。

「うわー美味しそう！ あっ！ お母さん、私今日は部屋で食べるわ」

「そう？ じゃあ、お盆の上に器を置いて持っていき。それと明日、お姉ちゃんが帰ってくるって」

「そうなん？ じゃあ赤ちゃんにも会えるんや。楽しみー！」

肩に鞆と両手に夜食を持ちながら、すぐ傍にある急な斜面の直階段を登っていく。

その先には左右に二部屋があつて、左手が三つ年上の姉の部屋で右手が私の部屋だ。

お姉ちゃんは、去年に結婚して生後半年の赤ちゃんがいる。今ではすっかり一児の母だ。

大分慣れてきたけど、やっぱり最初は違和感が拭えなかつたけどね。自室の引き戸を開けて、大好きな部屋に足を踏み入れる。

すぐに肩から鞆を下ろすと、窓際にある勉強机の上に料理が乗つたトレーを置いた。

これは私が小学生の頃に従兄弟のお兄ちゃんから貰つた机で、かれこれ十五年の付き合いになる。

未だに綺麗なままで、最近白いペンキを部分的に塗ってカントリー風にしてみたのだ。

これが案外よくて、塗って良かったなと内心思っている。

「あー疲れた。それにしても赤ちゃんに会えるのは嬉しいなあ！

やっぱりあの笑顔は癒しよね。本当に天使よ天使！ 可愛いもんなあ〜！！」

「天使は、可愛いだけじゃないぞ？」

「てか、それより仕事だよなあー。明日はともかく、明後日からどうしようかな……」

「それならお前次第だな」

「うーん、そうだよな。でもさ、売上を上げると言われても、その方法が分からないのどうしろって話だよな」

そこでふと、今私は誰と会話をしているのだろうと首を傾げる。確かこの部屋には、私しかいないはず。

家族の誰かが入ってくるなら階段から音がするはずだし、それは聞こえなかったのよね。

となると、あんまり考えたくないけど不審者だったりするのかな。

その途端、緊張のせいか体が強ばり血の気が引く思いをしつつも、声が出た後ろをゆっくりと振り返る。

するとそこには、見知らぬ美形の人物が仁王立ちをしていた。

あなた、誰？

第一話 不審者（後書き）

亀並みの更新になると思います。どうぞ宜しくお願いします^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5863y/>

Butler Angel

2011年11月20日17時20分発行